

今こそ考える 多様性

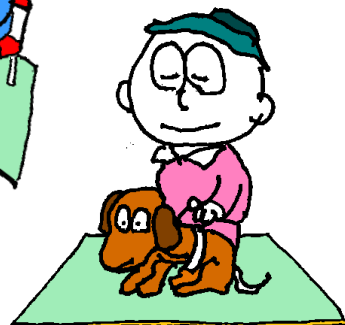
国籍・民族



肌の色

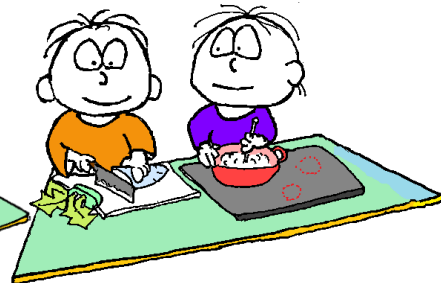
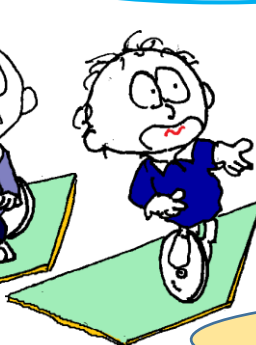
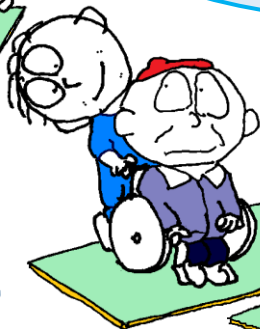


生活や文化



自分と思いや考えが違ってても
相手の話を聞く姿勢が大切

年齢



性別、性的指向・性自認

*それぞれが台形（同じ大きさ・形）の上のっています。この図形は、辺と辺を合わせることによって、しきつめることができます。お互いがひつつき合って、意見の違いや思いが通い合い、**信頼関係**が生まれるといいですね。それをイメージしました。

私たちは、国籍、性別、肌の色、生活や文化などいろいろな違いがあります。その違いの中には、能力や見方・考え方などの外見だけでは分かりにくいものもあります。

生まれ育った環境や背景などの違いから、一つの物事でも見る角度によって異なる答えが導き出されます。それを否定されると、何だか人格まで否定されたような気になってしまいます。そうならないためには、**相手の話をしっかり聞く姿勢が必要になります。そのことが、多様性を考える第一歩となります。**

世界人権宣言第1条には、「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利とについて平等である。人間は理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。」とあります。人それぞれに違いがあっても、お互いを尊重する意識を高めていかなければなりません。

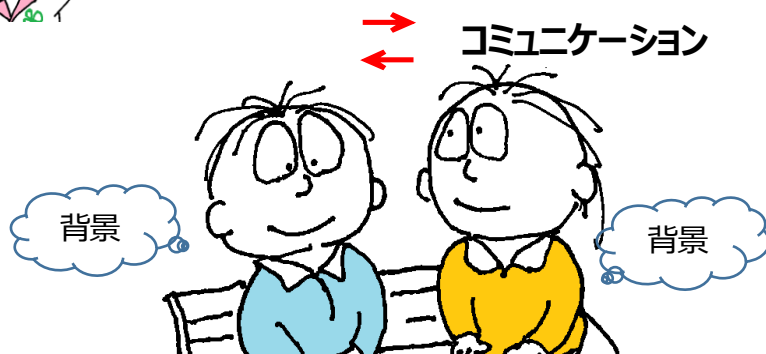
多様性を大切にするためには、「対話」が必要



多様性を大切にするためには、どうすればよいのですか？



それは、相手との対話を大切にする事です。対話は雑談などと違って、何らかのテーマに基づいて意見を述べ合います。**相手の話を否定せずに受けとめたうえで**、自分の考えを話します。対話に必要なことは「聞くこと」と「話すこと」です。それによって、コミュニケーションも生まれます。対話には、お互いの信頼関係を築くことも目的のひとつにあります。



対話の進め方のポイントを教えてください。

① <違いを許容する>

相手の差異を大切にして認め、否定しないことです。

② <対等な関係をつくる>

聞き手と話し手が対等（フラット）な関係を作ります。例えば、組織内ならば肩書はかたわらに置いて、相手を一人の人間として尊重します。

③ <相手の背景を知る>

相手の言葉の背景にある物語を理解しようします。言葉の背景には生まれ育った環境、文化、歩んできたキャリアなどがあります。相手が発する言葉の背景について、想像力を働かせることです。

④ <常識にとらわれない>

常識や従来の枠組みのなかで、相手の言葉を評価しないことです。従来の枠組みにとらわれていると、対話の中で「それは違う」「こうすべきだ」といった否定的な表現で返すことになりかねません。自らの価値観で評価をくださいなことです。

⑤ <新たな価値を見つける>

異なるものを受け入れて、新たな価値を創造することです。



多様性が認められる場合は、自分の意見が自由に話せる場です。①～④の条件が満たされれば、安心して自分の思いを語るできるようになります。多様な意見を受けとめることによって、考えの幅も広がり、⑤「新たな価値を見つける」ことができます。「多様性」のことを“ダイバーシティ”ともいいます。

参考図書：「異なる人と対話する 本気のダイバーシティ経営」野村浩子著 日経新聞出版 2021

